

はくがくニュース No.10

やまびと館

企画展「江戸時代の京都と鳥取」開幕 9/10～10/16

江戸時代の京都は、江戸や大坂とともに三都のひとつに数えられ、鳥取藩や鳥取に住む人びとは、様々な形でつながりをもっていました。その実像を鳥取に関する資料はもとより、金沢や岡山、高知など、鳥取以外の地域の資料も加えて紹介します。



国指定重要文化財紙本着色洛中洛外図屏風（左隻）（林原美術館蔵）

みなさんは、江戸時代の京都と鳥取の関係というところのようなかことをイメージされるでしょうか。中には「そもそも江戸時代の京都ってどんなところ？」、「幕末などに比べるとイメージがつかない」といった人も多いのではないでしようか。しかし、江戸時代の京都は、江戸や大坂と並んで「三都」のひとつに数えられた大都市で、経済や文化・学問などの中心地として繁栄しました。

そうした京都では、日本全国の人びとが様々な活動を繰り広げていました。鳥取藩やそこに住む人々もその例外ではなく、鳥取藩主池田家は朝廷から官位をもらい、京都に屋敷を構えて、そこに詰めた役人や御用商人らから呉服の購

入や親戚の公家らとの交渉などを行っていましたし、医者や絵師などを志す人びとも京都を目指しました。

また鳥取藩主池田家の女性たちにゆかりの寺院も京都にあり、倉吉に生まれた大江磐代君は光格天皇の母となります。

この展覧会では、そうした池田家や鳥取の人びとと京都とのつながりを、他の大名家や地域の事例も交えながら紹介していきます。本展を通じて、鳥取と京都との歴史的なつながりや交流などについて思いを馳せていただけたらうれしいです。

（千葉拓真/鳥取市歴史博物館学芸員）

【記念講演会】

「江戸時代の京都の武家屋敷」

講師：山本雅和さん

（京都産業大学文化学部客員教授・京都市考古資料館館長）

日時：10月2日（日）14時～15時30分

定員：40名（要予約） 参加費無料・

2022.9.13 発行

（公財）鳥取市文化財団

博学連携推進プロジェクト

鳥取市因幡万葉歴史館内

Tel. 0857-26-1780

E-mail: info-inabamanyou@tbz.or.jp



因幡国戸跡

山土憶良は716年から721年まで伯耆国の長

博学連携推進プロジェクト

http://www.tbz.or.jp/project

鳥取市因幡万葉歴史館内

Tel. 0857-26-1780

E-mail: info-inabamanyou@tbz.or.jp



特別展「憶良と家持」10/8

12/4

官を務め、726年に九州の筑前国の長官となります。その次の年、大伴家持の父である大伴旅人が同じ九州にある大宰府の長官として赴任してきます。そして730年の春、大伴旅人が主人として「梅花の宴」がひらかれ、その場に参列した人々が梅をテーマに歌を詠みました。その序文（歌の説明文）が元になって新元号が「令和」になりました。「梅花の宴」で詠まれた歌や、旅人と憶良が友として交した歌からは、旅人の子、大伴家持も大きな影響を受けています。そして万葉集に473首というたくさんの歌をつくり、百人一首にも家持の歌がとりあげられるほど有名になりました。

みなさんの住む鳥取ゆかりの歌人、憶良と家持のことを、この歴史館をとおして知っていただき、万葉集について楽しく学んでいただければと思います。

（鎌澤希南/鳥取市因幡万葉歴史館学芸員）

● 令和の万葉大茶会

大伴家持が万葉集最後の歌を詠んだ国府町で、「梅花の宴」を再現し、「お茶会」を開催します。

日時：10月15日（土）

13：30～14：30 「梅花の宴」 会場：鳥取市因幡万葉歴史館伝承館

雅楽・朗読劇・水素エネルギーによる万葉食

14：30～16：30 「お茶会」 会場：宇部神社 野立て・二十五弦箏演奏

【関連イベント・展示】

・「万葉朗吟の会」 会場：鳥取市因幡万葉歴史館伝承館

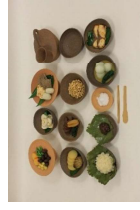
日時：10月16日（日） 家持の歌を思い、思いに歌い継ぎます。

・「万葉の四季―藤内雅和による書の雅―」 会場：鳥取市あおや郷土館

万葉集に収められているなじみ深い歌を、因州和紙に書いて紹介します。

会期：10月1日（土）～10月23日（日）

『万葉集』巻五 梅花の宴の歌32首の序文



大伴家持の食膳

